

# ずいひつ No.121

2016年9月25日発行

## 旅してみよう「おもしろい」神社仏閣 その3

愛知県の「おもしろい! (大阪弁)」神社仏閣、第3回目ではようやくお寺! 「覚王山日泰寺」を紹介します。



### 名古屋市千種区「覚王山日泰寺」

覚王山日泰寺は、名古屋市千種区にある超宗派の寺院です。超宗派とは、《どこの宗派にも属していない》という意味で、日本で唯一このお寺だけです。現在 19 宗派の管長が、輪番制により3年交代で住職をつとめ、各宗の代表が日常の寺務に携わっています。ちなみに《覚王》とは、釈尊のこと。そして《日泰》とは、日本とタイ王国のことです。日泰寺は、タイ王国から寄贈された《真舍利》を安置するために創建<sup>1</sup>されました。

### 真舍利と釈尊の實在

寺院にある仏舎利は、見立ての代替品であることが多いのですが、ここ日泰寺に安置されているのは、**釈尊の本当の遺骨 = 《真舍利》**です。1898年、イギリス人のウィリアム・ペッペが、インド北部で人骨の納められた古い壺を見つけ、壺にあった古代文字を解析したところ、人骨は仏舎利であることが判明しました。当時の西欧では、「釈尊は實在しない」という学説が主流だったのですが、この《**真舍利の発掘**》により**釈尊の實在が立証され、東洋史における大発見となった<sup>2</sup>**のだとか。そして真舍利は、当時インドを支配していたイギリス政府からタイ王国に寄贈され、ビルマ、セイロン、日本といった仏教国へ分与<sup>3</sup>されました。日本では、仏教各宗派の代表の話し合い<sup>4</sup>がもたれ、ここ名古屋市千種区へ新寺院を建立、真舍利を安置することとなったのです。



### タイとの友好

日泰寺は、タイとの友好関係を表すものがたくさんあります。本堂の軒先には、日本とタイの国旗。本堂前には、真舍利を分与したチュラロンコン国王の像。チュラロンコン国王記念日の10月23日には沢山の在日タイの方が献花に訪れます。足元の象が可愛いですね。象は釈尊にゆかりの深い動物でもあります。本堂の金銅釈迦如来像はタイの国宝で、真舍利と共に下賜されたもの。本堂内にある額は現タイ国王プミポン陛下直筆で、タイ字で「釈迦牟尼仏」と書いてあります。



### 覚王山祭もあるよ

毎月21日には弘法大師の縁日、そして参道界限では、春夏秋と季節ごとにアーティストが盛り上げる「覚王山祭」が開かれています。お祭りに行きがたら、日泰寺に参詣してみたいかでしょうか? 楠元キャンパスからとても近いので、行かないのはもったいないですよ!

(にわか名古屋人・M)

<sup>1</sup> 日泰寺 HP、概要・日泰寺略記参照

<sup>2</sup> 同じく日泰寺 HP、概要・日泰寺略記参照

<sup>3</sup> 明治33年6月のことで、7月に京都に到着した仏舎利は百一発の花火と数十万人の大歓迎に迎えられたそうです。

<sup>4</sup> 真宗大谷派紫雲寺 HP の、仏教夜話「仏舎利奉迎と覚王山日泰寺(その1)~(その4)」にその顛末が詳しいです。